



図 4-2 広域処理システム

◆ごみ量の予測と施策

本地域における熱回収施設とリサイクルセンターを中心にした広域処理システムは図4-2のようになります。また施設規模（熱回収施設、リサイクルセンター）の日のごみ予測は、

- ①ふじみ野市と三芳町の実績を整理し、
- ②過去5年の推移から見た将来ごみ量を予測し、
- ③両市町の減量化、資源化施策を「完全に」反映させた将来のごみ量を算出し、
- ④③の結果に対して現状施策での②の予測と比較し、その実現性を推測したものです。

ここで、気になる点は、②の将来のごみ量の予測ですが、両市町の総合振興計画に基づいており、人口も右肩上がりが増加すること

が前提になっています。

※全国的には人口減少が予想されます。

また、③の減量化、資源化施策については、議論が十二分尽くされたかという点があります。

※この点については、両市町の施策形成過程と施策そのものが異なり、考え方にも若干の温度差が感じられます。会報26号でふれた「ゼロ・ウェイスト（「みゼロ」）に取り組む市町村もあり、ある委員から提案もありましたが、そうした議論はなされていません。

ただし、右図の分別収集については両市町で統一、中間施設、最終処分は広域処理として一致した施策の展開（広域事業の事務範囲）を行うが、それ以前のごみの排出抑制（リデュース）、

再使用（リユース）などは両市町が独自の判断で施策を展開することになっています。これを受け新たに三芳の検討委員会で、独自のごみの減量化等を考えていくことになりました。

熱回収施設の規模は、将来の施設のランニングコスト等を考慮すると極力小規模のものが求められますが、事務局のごみ量予測には実現性、確実性への配慮があることがうかがえます。

◆処理システムの組み合わせ

広域処理システムは、交付金事業の対象になっており、その基準によると、現段階では三つの組み合わせが採用可能となります。

組み合わせ2の「灰溶融施設」は、焼却灰の適正処理及び資源化

組み合わせ1	焼却施設		リサイクルセンター
組み合わせ2	焼却施設	灰溶融施設	リサイクルセンター
組み合わせ3	ガス化溶融施設		リサイクルセンター

を目的として近年実績が増えています。致命的ではないとされる事故報告もあり。組み合わせ3の「ガス化溶融施設」は焼却施設と灰溶融施設を組み合わせた場合とほぼ同様の処理を一つのサイクルで行うことができます。やはり近年実績が増えています。事故報告もあり。

こうしたシステムの組み合わせに関しては、今後視察を実施しながら決ま定していくこととなります。

基本計画の詳細は、両市町のHPに公開されパブリックコメントにかけられますので、是非、多くの住民の皆様のご意見をいただけたらと思います。